

## 抗生物質と解熱剤の使用法

町田市民病院 2017 年度 第 1 回市民公開講座

小児科 大谷岳人

風邪（熱と咳や鼻水）はほとんどのお子さんが経験する病気であり、何度もかかることも珍しくありません。しかし、風邪で受診されたときによく処方される抗生剤や解熱薬の使い方をよく知らない方も多いかと思えます。

抗生剤は細菌感染を治療する薬であり、ウイルス感染が原因の風邪には抗生剤は全く効果がありません。抗生剤が必要になるのは、細菌性肺炎や細菌性中耳炎などのごく一部のケースです。大切なことは、風邪をひいたときに細菌性肺炎や細菌性中耳炎を合併していないか、しっかり確認することです。2-3 日で高熱が治まらない、症状が悪化する、診察で胸の音が悪い、中耳に膿が溜まっている、などのときは抗生剤が必要な場合もあるでしょう。抗生剤には下痢やアレルギー、低血糖などの副作用があり、ときには命にかかわることもあります。また、不要な抗生剤を使い続けると抗生剤が効かない薬剤耐性菌が増えてしまうことも問題です。このまま不要な抗生剤使用を続けると、「細菌性肺炎に罹ると助からない」という時代がやってくるかもしれません。お医者さんに抗生剤をもらうときは、風邪以外の何に対しての抗生剤なのか、お医者さんに確認して飲むようにするとよいでしょう。

風邪をひいたときには解熱薬をうまく使うことが重要です。熱はウイルスの活動を抑える働きがありますが、熱のために睡眠がとれなかったり水分摂取ができなかったりすると、免疫力が低下してしまい、かえって治りが悪くなってしまいます。熱のために寝つけない、水分がとれないなどの場合は解熱薬を使ってあげるとよいでしょう。ただし、熱が高くても脳に後遺症を残すことはない、熱が高いほど重症な病気というわけではないということは知っておいて下さい。

熱は夜間に高くなる傾向があり、熱のため機嫌が悪くなったり息が荒くなったりして、不安になると思います。お子様がつらそうなときは、首や脇、股などを冷やしてあげて下さい。眠れて水分がとれていれば慌てて病院を受診する必要はありません。経過をみて日中にかかりつけ医を受診して下さい。生後 3 ヶ月未満の場合や、薄着にしたり体を冷やしてあげたりしても「元気がなくぐったりしている」「機嫌が悪く泣き続ける」「水分をまったくとらない」ときは早めの病院受診をお勧めします。